

2022.11.10. 木曜礼拝 神の御言葉に従うことの祝福

エレミヤ 35・36 章

JD ファラグ牧師

では、エレミヤです。また言いますが、本当に、今夜の 2 章を楽しみにしていました。先週 34 章まで進みましたので、35 章と、主の御心なら 36 章も見ていきます。では祈りましょう。私たちが共に過ごし、御言葉と共に過ごす時間に神の祝福を求めましょう。宜しければ一緒に。

主よ、本当に感謝します。主よ、今私たちを落ち着かせ、思いを静め、あなたに集中し、今夜あなたが私たちのために用意されていることに集中させてください。主よ、聖霊が私たちの教師であり、私たちの注意を引き、留まらせてくださらない限り、今夜一緒に過ごす時間は無駄なものになると、私たちはただ素直に認めます。そんなことを望んでいる人は、ここにいる私たちの誰一人としていないと確信しています。私たちがここにいるのは、その逆のことが起こる必要があるからです。私たちには共に過ごす時間が必要です。これはあなたと、あなたの御言葉の中で共に過ごす時間です。私たちは毎週楽しみにしています。ですから主よ、だからこそ、私たちはここに居ます。私たちの人生にあなたが語られることを聞きたいのです。あなたはいつも忠実に語って下さるからです。あなたは私たちの心を知っておられ、すべてを知っておられます。私たちの人生、私たちの心に、私たちがあなたの御言葉を必要としていることを、あなたはとても忠実に、具体的に、個人的に語ってくださいます。主よ、今夜そうなさってくださいますか？ 私たちはあなたがそうして下さると知っています。それをあなたに求め、そのことを前もって感謝します。主よ、感謝します。私たちはあなたを本当に愛しています。あなたの御言葉を、エレミヤを感謝します。これらの 2 章に感謝します。祝福し、祈ります。イエスの御名によって、アーメン。

それでは。この 2 つの章は、時系列ではありません。むしろ、エレミヤ書全体がそうであるように、神によって並べられ、トピック的に並べられてもいます。これは、書全体にも言えることですが、一見関係のない 2 つの章が背中合わせになっているとき、そこには理由があります。この 2 つの章を扱うのは、いずれも、神の御言葉に従うことの祝福を語っているからです。これからご覧いただくように、また、先を読まれている方は、もうお分かりだと思います。今、あなたがヒヤヒヤしているのはそのためです。特に 36 章になると、本当に激しくなります。神は預言者エレミヤに、神の御言葉に従うことの祝福だけでなく、逆に神の御言葉に背くことの呪いについて、この 2 つの力強い記録を残させられました。つまり対比があまりに鮮明で、見事とさえ言えるでしょう。準備はいいですか？ 1 節に入りましょう。

—エレミヤ 35:1—

ユダの王、ヨシヤの子エホヤキムの時代に、
主からエレミヤに次のようなことばがあった。

—エレミヤ 35:2—

「レカブ人の家に行って彼らに語り、主の宮の一室に連れて来て、彼らに酒を飲ませよ。」

なるほど。この章ではまず、レカブ人について紹介します。レカブ人は興味深いことに、遊牧民で、モーセの義理の父であるイテロの子孫です。今度は主の御言葉がエレミヤに臨み、エルサレムにいるレカブ人たちを呼び寄せるように言われます。間もなくその理由を見ていきますが、レカブ人をこの一室に連れてきます。非常に具体的で、非常に詳細です。そして彼らに、ぶどう酒を飲むようにと与えます。なんだか変な感じですよ？ さて、ここで間もなくその意味がわかると思いますが、この箇所の中に

自分自身を置くことを皆さんに勧めないならば、よりひどく、至らない学びになると私は思います。私の言いたいことが分かりますね？ 私たちには神に与えられた想像力があります。神から与えられた想像力です。想像力を働かせましょう。実際にエルサレムに行ってみましょう。ここに招待状があります。ぶどう酒は飲みませんが、ただそこに行ってみましょう。これから、先ほど紹介したレカブ人と合流します。私たちはエルサレムにいます。どうやら私たちは、エレミヤがこれから彼らにぶどう酒を提供するこの部屋に入るように招かれたようです。では、そこに行きませんか？ 自分自身をその場に置いてみましょう。大丈夫ですか？ それでは、やってみましょう。お～、皆さん大好きですよ。3節。

—エレミヤ 35:3—

そこで私は、ハバツィンヤの子エレミヤの子であるヤアザンヤと、その兄弟とすべての息子たち、レカブ人の全家を率いて、

—エレミヤ 35:4—

主の宮にある、イグダルヤの子、神の人ハナンの子らの部屋に連れて来た。それは首長たちの部屋の隣にあり、入口を守る者、シャルムの子マアセヤの部屋の上であった。

かなり具体的です。ここに何人か名前が並んでいます。後でお話したいと思います。さて、私たちはそこにいますね？ そこで、一緒にこの場面を思い浮かべてほしいのです。どれほど強烈でしょうか？ レカブ人に全注目が集まっています。これは非常に公に行われています。非常に正式なものです。非常に具体的です。すべての人がマアセヤを知っていて、すべての人がハナンを知っています。すべての人が、確かにこの神の人イグダルヤを知っていて、すべての人がレカブ人がこの都のこの部屋に招かれたことを話しています。そしてエレミヤがパーティーを開くようで、皆がそれを見ており、不思議に思っています。それこそが、神が彼らに望んでおられることです。完璧です。しかし...ちょっと威圧的な感じもします。そう思いませんか？ あなたがその都にあるその部屋に入っていくと、皆が見ているのです。

「君たちどこに行くんだ？」「ああ、私たちは招待されたんです。これが招待状です。」

出欠確認です。「君たちは何をしますか？」「ああ、どうやらぶどう酒が出るみたいで、この場に招待されたんです。実は今、少しプレッシャーを感じています。」

「少し？そうですか？ まあ、今は感じなくても、感じるようになるでしょう。」5節。

—エレミヤ 35:5—

私は、レカブ人の家の子らの前に、ぶどう酒を満たした壺と杯を出して、「酒を飲みなさい」と言った。

質問です。なぜエレミヤは彼らにぶどう酒を飲むように命じないのでしょうか。エレミヤは、彼らに尋ね、誘い、提案するだけであり、命令ではないことに注意してください。ところで、彼らにはそうする義務がありました。では、なぜ飲めと命じないのか？ 答えは、主は、彼らが父の命令に”従順”(キーワード)であることを知っておられ、このことをユダに対する非常に公的で強力な教訓として用いるつもりであったことが、まもなくわかるでしょう。今、これはエレミヤの招きに対するレカブ人らの応答です。繰り返しますが、皆さんそこにいますね？ 壺いっぱいぶどう酒があり、杯があります。この部屋にいて、そこは個室のようなものです。非常に正式なセッティングです。あなたはそこにいて、これがレカブ人の応答です。6節。

—エレミヤ 35:6—

すると彼らは言った。「私たちはぶどう酒を飲みません。というのは、私たちの先祖レカブの子ヨナダブが私たちに命じて、『あなたがたも、あなたがたの子らも、永久にぶどう酒を飲んではならない。』

ーエレミヤ 35:7ー

あなたがたは家を建てたり、種を蒔いたり、ぶどう畑を作ったり、また所有したりしてはならない。あなたがたが寄留している地の面に末永く生きるために、一生、天幕に住め』と言ったからです。

わお...！ お～...私たちがこのように、この世に安住することなく、この世のものに軽く触れている姿を痛切に描かれる人々でありたいと神に願います。先祖からの命令は、ぶどう酒を飲んではいならない、定住してはならない、家を建てたり、ぶどう畑を作ってはならないというもので、天幕に住み、遊牧民になりなさいと。いつでも、手に持って移動できるような一時的な感覚です。これをお許しいただきたいのですが、これは、私にとって携挙の描写です。つまり、いつでも...！ なぜなら、私たちはこの世に一時的に滞在しているに過ぎないからです。ただ通り過ぎるだけです。私たちは寄留者です。エイリアン（外国人）という言葉は使いません。この言葉は嫌いです。すっかり意味合いが変わってしまっていて残念です。ところで、あなたの牧師はエイリアンだと知っておいてください。説明しますから、お待ちください。待ってください。私たちが合法的に移民したとき...合法的にアメリカに移民しました。”合法的に”と言いましたね？ 1963年、私が生後9カ月の時です。グリーンカードを渡されたのですが、エイリアン（外国人）と書かれていました。「うわあ、だからグリーンなのか」と思いました。私は18歳になるまでエイリアンでした。その時私の両親は市民権、つまりアメリカ国籍になっていましたが、そのためには5年かかりました。勉強も、授業も、テストも、すべてやり遂げなければなりません。そして5年後に、両親はアメリカ国籍になりました。涙を流しながら行ったあの式典は、一生忘れられません。私は幼くて、全く分かっていませんでした。

「私はアメリカ人です。アメリカは私にとっても良くしてくれた。」（中東訛り）

私は分かっていませんでしたが、両親は非常に喜んでいました。喜びの涙を流して。今やアメリカ国籍です。母にこう聞いたのを覚えています。ちなみにそのカードはまだ持っています。いいえ、見せれませんよ。私は母に尋ねました。「ママ、これは何？」ああ、もうあなたには必要ないわ。大丈夫よ。今はもう国民だから。「もう僕はエイリアンじゃないってこと？」「そうよ。あなたはこの国の国民なの。」なぜこれを強調するのかというと、なぜなら、私たちは天の国民だからです。私たちの国籍は天にあります。（ピリピ 3:20）

私たちは皆、クリスチャンとして、まだ緑のエイリアンカードを持っています。ただ通り過ぎるだけだからです。私たちは、ただの寄留者です。いつ上がるかわからないので、すぐにいられるように準備しておいてください。この世界やこの世のものに縛られすぎていると、あなたは…これは違いますが…良いでしょう。皆さん、慣れていきますね。携挙が起きて、あなたがこの世に縛られていたら、もっと時間がかかって...とにかく、だから違うと言いましたね。でも考えてみてください。心の中では、真実ではないですか？ あなたがこの世に縛られているなら、あなたは、虫やさびがつき、泥棒が侵入して盗むことができる地上に宝を蓄えています。

あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです。（マタイ 6:19 - 21）

あなたの心が天にあるなら、それはあなたの宝が天にあるからです。もし、あなたの心がまだ地上に縛られているとしたら、それはあなたの宝がこの地上にあるからです。私たちがみんな、レカブ人になることを神に祈ります。8節。レカブ人がエレミヤの招待に対して、答え続けています。エレミヤは、彼らがこのような応答を知っているからこそ、そもそもこのようなことをしているのです。

ーエレミヤ 35:8ー

私たちは、私たちの先祖レカブの子ヨナダブが私たちに命じたすべての命令に聞き従ってきました。私
たちも、妻も、息子、娘たちも、一生ぶどう酒を飲まず、

ーエレミヤ 35:9ー

住む家も建てず、ぶどう畑も、畑も、種も持たず、

ーエレミヤ 35:10ー

天幕に住んできました。私たちは、すべて先祖ヨナダブが私たちに命じたとおりに、従い行ってきました。

先に進む前に、理解すべき大切なことがあります。これはぶどう酒、家、ぶどう畑や畑についてのことでなく、”従順”についてのことです。それらを所有することが悪いことではありませんが、ただ、それらにあなたを支配させないでください。家を持って、家があなたを縛らないように。所有物、ぶどう畑、畑、これらすべてを持ってください。しかし、それらに支配されないように。主があなたを支配するように。主があなたの心を支配されるように。それらにあなたの心を支配させてはいけません。それらはあなたの心を盗むからです。そこにあなたの宝があるなら、あなたの心もまた、そこにあるからです。11節。レカブ人がまだ応答しています。

ーエレミヤ 35:11ー

しかし、バビロンの王ネブカドネツアルがこの地に攻め上ったとき、私たちは『さあ、カルデアの軍勢とアラムの軍勢を避けてエルサレムに行こう』と言って、エルサレムに住んだのです。」

言い換えると、「私たちはここに居ますが、実は、正直なところ、ここに来たのは不本意なことでした。私たちは、この遊牧民として天幕に住んでいるときは、まったく問題ありませんでした。しかし、バビロンの王ネブカドネツアルとカルデアの軍隊から逃れるために、仕方なく、ここエルサレムに来ました。□そこで、私たちはここエルサレムの町に避難しました。」ここがポイントです。彼らは神の定めによってそこにいます。聞いて下さい。私たちはしばしば、人生の逆境や不利な状況を、自分の人生に対する神の御心ではないと誤解してしまい、大きな過ちを犯してしまうことがあると思います。これはまさに神の御心なのです。神はレカブ人をエルサレムに連れて行く必要があらわれました。神はどうやってそれをなさるのか？ □カルデア人が2人ほど玄関先に現れるだけです。いいえ、エホバの証人でもありません。失礼しました。それだけでいいのです。つまり、神はどうやって私たちをA地点からB地点へ連れて行かれるのでしょうか。神は、私たちがB地点を考えるよう仕向けるために、A地点を混乱させる必要があらわれます。なぜなら、神は私たちをB地点まで連れていかなければならないからです。レカブ人にとってB地点とは、エルサレムのことです。次に進む前の重要点は、これだと思います。人生の困難さを、自分の人生には目的がないと空想してはいけません。神は逆境を用いて、私たちを必要なところに導いてくださいます。カルデア人やバビロン人が、このレカブ人たちに脅威を与えていなかったら、彼らがエルサレムに来ることはなかったでしょう。神はこのような時のために、彼らをエルサレムに必要とされました。神はあなたを動かそうとしています。文字通り地理的ではないかもしれませんが、神はあなたを、率直に言えば、あなたが少し快適になり過ぎた場所から移動させようとしておられます。もちろん、神は苦しんでいる人を慰めてくださるという言葉聞いたことがあると思います。しかし、神はまた、心地良く過ごす者を苦しめられます。私たちは時々、心地良くなりすぎていると思います。ペテロが主を否定する前に、敵の攻撃に少しばかり慣れてしまったことを考えます。ペテロはカモにされました。完璧な嵐です。そもそも、ペテロはそこにいるべきではありません。でも、そこにいました。

時々、私たちは少しばかり心地が良すぎるのではないかと思うことがあります。なぜなら、私たちは、言ってみれば、心地良さを求める生き物だからです。考えてみれば、私たちの生活の中で、努力や出費の多くは、より快適な生活を送ることに向けられています。ほら。そして、便利さ。

「ああ、これなら時間が短縮できる。ああ、これはとても楽だ。」「こうすれば、私の生活はとても楽になる／快適になる。」私は主を想像します。私は自分の人生の自分のことを話しています。神は私を見られ、こう言われます。「おお。」あの表現を知っていますか？「カモを一行に並べないと」（きちんと準備をしとかないと）私は準備します。すべてのカモが揃えば、快適に過ごせる。だから、なんとか努力だけでやっています。私はすべて自分のカモを揃えます。主は、「おお。すべてのカモが揃ったようですね。でも、もうありませんよ。」「主よ...！何をなさっているんですか？」「あなたは、そこで少し心地良くなりすぎています。すべてのカモが揃っています。ところで、わたしはあなたとしばらく話していません。あなたは電話してきませんね。あなたからの連絡を楽しみにしているよ。」それは、物事がうまくいっているとき、心地良く、恵まれているときではないでしょうか。しかし、カルデア人が襲ってくるような逆境に見舞われるとは。「主よ...！」私は非常に罪を示されているので、先に進みましょう。12節。

—エレミヤ 35:12—

すると、エレミヤに次のような主のことばがあった。

—エレミヤ 35:13—

「イスラエルの神、万軍の主はこう言う。行って、ユダの人とエルサレムの住民に言え。『あなたがたは訓戒を受け入れて、わたしのことばに聞き従おうとしないのか—主のことば—』

—エレミヤ 35:14—

レカブの子ヨナダブが、酒を飲むなど子らに命じた命令は守られた。彼らは先祖の命令に聞き従ったので、今日まで飲んでいない。ところが、わたしがあなたがたにたびたび語っても、あなたがたはわたしに聞き従わなかった。

—エレミヤ 35:15—

わたしはあなたがたに、わたしのしもべであるすべての預言者たちを早くからたびたび遣わして、さあそれぞれ悪の道から立ち返り、行いを改めよ、ほかの神々を慕ってそれに仕えてはならない、わたしがあなたがたと先祖たちに与えた土地に住め、と言った。それなのに、あなたがたは耳を傾けず、わたしに聞かなかった。

—エレミヤ 35:16—

実に、レカブの子ヨナダブの子らは、先祖が命じた命令を守ってきたが、この民はわたしに聞かなかった。

おお...今、ちょっとだけ見えてきました。この教訓は非常に明確です。このレカブ人は、彼らの先祖の命令に従っていて、彼らの神ではありません。たった一度だけ語られたことです。そしてこれは、約 300 年前と言われています。先祖は一度だけ命令を語りました。彼らはそれに従い、今でも従っています。神が彼らをエルサレムまで連れて行き、エレミヤにこのようにさせたのはこのためです。

「わたしはレカブ人をイスラエルの民の教訓として用いる。見てみなさい、どれほど...」私は怒っていませんよ。怒ってるみたいですが、違います。罪を示されていますが、怒ってはいません。

「わたしは、何年もの後に、祖父に従順であったレカブ人を使い、わたしの民のわたしの命令への不従順を対比させる。彼らは何年も経った今日まで、先祖の命令、一つの命令に従っている。あなたが

たは、あなたがたの神であるわたしに従わないのか？」

しかも、300年前の1回だけではありません。300年間、毎日、一日中、毎年、30万回という感じでした。

「朝早く、わたしの命令をもって預言者たちを送り出した。しかし、あなたがたは聞かなかった。耳を傾けなかった。わたしに従わなかった。恥を知りなさい、ユダよ。レカブ人を見なさい。」

ほら、ここで比べてみましょう。親が他の子と比較するのは嫌じゃないですか？兄弟とはどうですか？う〜...「さて、ここで比較してみよう。彼らを見てみなさい。」だからこそ、私たちがその場において、部屋の中の緊張感を感じ取ることが重要なのです。それは大変なプレッシャーです。「ほら、ぶどう酒をどうぞ。」(不吉な笑い)「いいえ、私たちは飲めません。不従順になってしまうから。」「大丈夫だって。誰にも言わないから。」いいえ、言いますよ。もう一度、さらに酷くなります。17節。

一エレミヤ 35:17一

それゆえーイスラエルの神、万軍の神、主はこう言われるー見よ。わたしはユダと、エルサレムの全住民にわたしが彼らについて語ったすべてのわざわいを下す。わたしが彼らに語ったのに、彼らは聞かず、私が彼らに呼び掛けたのに、彼らは答えなかったからだ。』

一エレミヤ 35:18一

エレミヤはレカブ人の家の者に言った。「イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。『あなたがたは、先祖ヨナダブの命令に聞き従い、そのすべての命令を守り、すべて彼があなたがたに命じたとおりに行った。』

一エレミヤ 35:19一

それゆえーイスラエルの神、万軍の主はこう言われるーレカブの子ヨナダブには、わたしの前に立つ人がいつまでも絶えることはない。』

わお...！この意味が分かりますか？ この「わたしの前に立つ」とは、このご好意、つまり「わたしを礼拝し、わたしの前に仕えるという特権を、いつもあなたに与える」という、深い特権です。これは大きいです。それが、従順から来る祝福です。しかし、その反対側には、イスラエルの民が不従順であったことに対する呪いがあることに注目してください。もう一度、この対比に注目してください。とても対照的です。こちらのレカブ人は、その従順さゆえに想像を絶するほどの祝福を受けています。そして、ここにいるイスラエルの民は、その不従順のために想像を絶するわざわいの呪いを受けています。36章。調子はどうですか？ ここまで大丈夫ですか？ まだ誰も帰っていませんね。良い兆候です。では1節です。

一エレミヤ 36:1一

ユダの王、ヨシヤの子エホヤキムの第四年に、主からエレミヤに次のようなことばがあった。

一エレミヤ 36:2一

「あなたは巻物を取り、わたしがあなたに語った日、すなわちヨシヤの時代から今日まで、わたしがイスラエルとユダとすべての国々について、あなたに語ったことばをみな、それに書き記せ。

なるほど。ところで、聖書を手に持っている方は、デバイスでも大丈夫ですが、こうしてエレミヤ書が聖書の正典に加えられたと、今、読んだ通りです。エレミヤが口頭で語った預言がすべて文書で保存されました。今は、神の御言葉の中に残されています。なぜなら、ここではそれがいつ起こるのか、何が起こるのかまで語られているからです。この章では、エレミヤ書がどのように書かれ、どのように残さ

れてきたかを知ることから始まります。次に、その理由を見ていきます。これは非常に重要です。お聞きください。

「これがあなたのすべきことだ、エレミヤ。なぜそうしなければならないか、その理由はこれです。」 3節。

ーエレミヤ 36:3ー

ユダの家は、わたしが彼らに下そうと思っているすべての災いを聞いて、それぞれ悪の道から立ち返るかもしれない。そうすれば、わたしも、彼らの咎と罪を赦すことができる。」

これが理由です。聖書のページ全体が、この目的のために記録され、書かれたものと言えます。

目的とは何か？「この文章を読んだ人たちが、自分の悪い道から立ち返るかもしれない、そうすればわたしは彼らを許し、回復させることができる。」

聖書は、罪を責めるために書かれたのではなく、和解のために書かれました。イエスは言われました。

「わたしは世を罪に定めるためではなく、失われた者を救うために来た。」と。(ヨハネ 12:47 参照)

創世記の初めから、黙示録に至るまで、エレミヤ書 36 章の 3 節に集約されます。言い換えれば、そのために聖書があるとも言えます。それは、私たちが悪から立ち返るためであり、私たちの罪の赦しを求めて主に立ち返るためです。聖書の中の多くの記述は、何年も私たちと共におられる方にとっては、神の御言葉の中には、「これは情報量が多すぎる、余分な情報だ」と思うような、本当にひどい箇所がいくつかありますね。私はそんなこと知りたくありません。「いいえ、知る必要があります。」いや、私はダビデのあのことについて知りたくありません。「いいえ、ダビデのあのことについて知る必要があります。」ええ、でも、ダビデがしたことは、本当に恐ろしいことです。姦淫、殺人、そしてそれを隠そうとするなんて。彼女は妊娠してしまって、…そういうのを映画化するのです。これは、イスラエルの甘美な詩人ですよ？ この男は、神の御心に適った人です。冗談でしょ？ 聞いてください。もし私が神なら、そんなことは含みません。聖書に含めません。だって...神の御心に適った人の部分だけ含めましょう。殺人者や、姦淫者や、謀略や策略に長けた狡猾な人の部分ではなく...やりすぎたかもしれませんが、ポイントは分かれますね。

では、質問は、「なぜか？」なぜ、聖書にこのことが書かれているのか？

ダビデの悪さを見るためでしょうか？ そうではなく、ダビデがいかに悪い人間であったとしても、神がいかに良いお方であるかを知るためなのです。それは私たち一人ひとりの希望になるはずです。この男を見て、私は「おい...」と思います。「お前は完全におしまいだよ。」しかし、神は...！ 憐み深くあられます。神はあなたを赦してくださいます。もし神があなたのしたことを赦されるなら、私と私がしてしまったことにも希望があるということです。神は私たちが赦したいと思っておられます。赦したいと願っておられます。主は罰すること、裁きを下すことを喜ばれません。私たちが神のもとに来ることを願っておられます。私たちがすべての逆境を聞き、すべての逆境さえも経験するとき、その目的は何か？

「それは、彼らをわたしのもとに連れてくるという目的があります。わたしのもとに立ち返り、わたしのもとに帰って来るためです。罪を責めるためではなく、和解のためです。回復のためです。」 4節。

ーエレミヤ 36:4ー

そこでエレミヤは、ネリヤの子バルクを呼んだ。バルクはエレミヤの口述にしたがって、彼に語られた主のことばを、ことごとく巻物に記した。

ーエレミヤ 36:5ー

エレミヤはバルクに命じた。「私は閉じ込められていて、主の宮に行けない。

「彼らは私に活動停止命令を出しています。検閲されたんです。YouTube のチャンネルも停止され、ソーシャルメディアのアカウントも停止されましたが、すべては私が真実を語ったからです。私の話が気に入らなかったので、追放されました。」親近感が湧くように、持っていきこうとしました。ええ、ありがとうございます。「あなたが行きなさい。私は行けないから。バルク、あなたが行きなさい。」

—エレミヤ 36:6—

だから、あなたが行って、あなたが私の口述によって巻物に書き記した主のことばを、断食の日に主の宮で民の耳に読み聞かせよ。また、町々から来るユダ全体の耳にもそれを読み聞かせよ。

さて、このバルクという人物を紹介します。彼は何者か？書記です。新約聖書の使徒パウロの場合と同じで、発音や記憶が正しければ、彼の名はテルテュスです。ローマ人への手紙を使徒パウロのために書いた書記でした。エレミヤはこれを書きませんでした。書記に書かせました。この書記は、バルクと書かれています。エレミヤは町から出入り禁止になったので、バルクに言いました。

「さあ、これを持って行きなさい。自分の町から来たすべてのユダの人々の耳に聞かせなさい。」なるほど。ずいぶん長い朗読になりそうですね。ここでもう一度出てきます。7節。

—エレミヤ 36:7—

そうすれば、主の前で彼らの嘆願が受け入れられ、それぞれ悪の道から立ち返るかもしれない。…

これが目的です。これがその背後にある理由です。「エレミヤ、バルク、これがわたしがあなたにして欲しいことです。すべて書き留めてほしい。あなたは書物を持って、彼らがその悪い道からわたしに立ち返るために、彼らの耳に読み聞かせて欲しい。」

…主がこの民に語られた怒りと憤りは大きいからだ。」

—エレミヤ 36:8—

そこでネリヤの子バルクは、すべて預言者エレミヤが命じたとおりに、主の宮で主のことばの書物を読んだ。

—エレミヤ 36:9—

ユダの王、ヨシヤの子エホヤキムの第五年、第九の月、エルサレムのすべての民と、ユダの町々からエルサレムに来ているすべての民に、主の前での断食が布告された。

—エレミヤ 36:10—

そのときバルクは、主の宮で民全体に聞こえるように、その書物からエレミヤのことばを読んだ。そこは、主の宮の、新しい門の入り口付近の上庭にあった、書記シャファンの子ゲマルヤの部屋であった。

具体的な名前が含まれていることに注目してください。なぜか？ 2つ考えを述べます。

1つ目。彼らは実在の人物でした。私たちは神の御言葉を読むとき、とても簡単に、自らを危険に晒していると思います。まず、名前の発音ができません。最善を尽くしますが、もちろん、これらはヘブライ語の名前ですが、念のため、これらのヘブライ語の名前のアラビア語の発音をお伝えしておきます。頑張りますが、ましてや発音もできません。なぜ、彼らの名前を知る必要があるのか？ すべては、彼らが実在の人物だったからです。この人はこういうことをした、あの人はああいうことをした、と一般的なものならともかく、いいえ、待ってください。その人には名前があります。「その人の名前は？」ゲマルヤです。「ああ、覚えているよ。シャファンの子どもだ。」「彼のお父さんを知っているよ。彼がまだ小さかった頃を覚えているよ。走り回っていたずらをする小さな男の子。」

でも今は違います。実在の人物であるだけでなく、神に従う人です。神に従う人だけでなく、神に従う父でもあります。そのことを、間もなく見ていきます。だからこそ、名前の具体性があるのだと思います。私たちは、神がこれらの神に力強く用いられた人々の名前を記録する必要があると思われる時、私たちは考慮するのがいいと思います。注目すべきです。彼らは、私やあなたと同じ、実在の人物でした。異なる時代、同じ神です。彼らは、私やあなたと同じように葛藤しました。彼らは、私たちと同じように、問題や人生のプレッシャーに対処していました。しかし、私たちとは異なり、彼らは、神が彼らの人生と名前と息子とその血統を聖書に記録する必要があると見なされた時代に生きていました。彼らは実在した人物です。11 節。

—エレミヤ 36:11—

シャファンの子ゲマルヤの子ミカヤは、その書物にあるすべての主のことばを聞き、

—エレミヤ 36:12—

王宮にある書記の部屋に下ったが、見よ、そこには、すべての首長たちが座っていた。…

さらに名前が出てきます。注目下さい。

…すなわち書記エリシャマ、シエマヤの子デラヤ、アクボルの子エルナタン、シャファンの子ゲマルヤ、ハナンヤの子ゼデキヤ、およびすべての首長たちである。

—エレミヤ 36:12—

ミカヤは、バルクがあの手紙を民に読んで聞かせたときに聞いた、すべてのことばを彼らに告げた。

—エレミヤ 36:14—

すべての首長たちは、クシの子シェレムヤの子ネタンヤの子ユディをバルクのもとに遣わして言った。「あなたが民に読んで聞かせたあの手紙、あれを手を持って来なさい。」そこで、ネリヤの子バルクは、手紙を手を持って彼らのところに入って来た。

—エレミヤ 36:15—

彼らはバルクに言った。「さあ、座って、私たちにそれを読んで聞かせてくれ。」そこで、バルクは彼らに読んで聞かせた。

それって聖書の学びです。二度目、二回目です。バルクは手紙のすべてを読みました。私たちが今持っているようなものではありません。かなり長い手紙でした。どのくらい時間がかかったかは分かりません。書かれていません。想像はできます。彼は 2 回読みました。彼が書いた言葉はすべて、エレミヤを通して主の命令によって書かれたものです。では、16 節です。

—エレミヤ 36:16—

そのすべてのことばを聞いたとき、彼らはみな互いに恐れおののき、…

聖なる恐れというものです。主の恐れです。

…バルクに言った。「私たちは、これらのことばをすべて、必ず王に告げなければならない。」

—エレミヤ 36:17—

彼らはバルクに尋ねて言った。「さあ、あなたがたがこれらのことばをすべて、どのようにして書き留めたのか、私たちに教えてくれ。エレミヤが口述したことばを。」

—エレミヤ 36:18—

バルクは彼らに言った。「エレミヤがこれらのことばをすべて私に口述し、私は墨でこの手紙に記しました。」

ーエレミヤ 36:19ー

すると首長たちはバルクに言った。「行って、あなたもエレミヤも身を隠しなさい。あなたがたがどこにいるか、だれにも知られないようにしなさい。」

「このことでああなたがたは殺されます。」

ーエレミヤ 36:20ー

彼らは巻物を書記エリシャマの部屋に置き、王宮の庭にいる王のところに行って、このすべてのことを報告した。

ーエレミヤ 36:21ー

王はユディに、その巻物を取りに行かせたので、彼はそれを書記エリシャマの部屋から取って来た。ユディはそれを、王と王の傍らに立つすべての首長たちに読んで聞かせた。

皆さん、まだそこにいますか？ 今は別の部屋にいるんですよ。これは別の部屋の予約です。あなたはそこにいて、王がそこにいます。う〜...！ 首長たちがいます。う〜！ あなたは部屋の奥にいるようなもので、目立たないようにするでしょう。あなたはただ、この出来事の成り行きを見ています。22 節。

ーエレミヤ 36:22ー

第九の月であったので、王は冬の家の座に着いていた。彼の前には暖炉の火が燃えていた。

なんて居心地がいいんでしょう。そして、それは起こりました。23 節。

ーエレミヤ 36:23ー

ユディが三、四段を読むごとに、王は書記の小刀でそれを裂いては暖炉の火に投げ入れ、ついに、巻物すべて暖炉の火で焼き尽くした。

冗談でしょ？ 聞いてください、もし私がバルクなら、「止めろ〜！！ それを書くのにどれだけ時間がかかったと思ってるんだ？ どういうことだ？」

もう一度、詳しく見ましょう。あなたはそこにいて、王を見ています。彼を見ましたか？ 私は見ました。王は書記の小刀をとって...これは神の御言葉です。あなたは聖書をとって、…こんなことしないでくださいね。ただ想像してみてください。あなたはナイフを取って...ほら、カミソリのように、何ていいますっけ？ X-Acto？ (刃物メーカー) そう呼ばれているんですか？ 誰かユーモアで、そうだと教えてください。X-acto ナイフでも何でもいいのですが、あなたは、「ああ、この御言葉、この箇所、この節が気に入らない。」と言い始めます。そして...、ナイフで切って、ピリッと破る。火の中に放り込みます。それは神の御言葉です！ 何てことをするんですか？！

「いいえ、そんなことしませんでしたよ。」いや、あなたはしました。そんなことしたなんて、信じられません。あなたは、神の御言葉を切り捨て、引き裂き、取り去っています。何をしたいのですか？ それが起きないように削除しようとしているのですか？ まあ、実はそういうわけです。さあ、もう一度...先走ってしまいましたね。24 節。これはゾッとします。皆さん、まだそこにいますね？ あなたは今、王がナイフをとり、神の御言葉を切り裂き、火の中に投げ入れるのを見ています。巻物全部が火で焼かれるまで、それを続けるのです。ただただ息を呑むばかりだと思ってしまうでしょう。そうではありません。24 節。

ーエレミヤ 36:24ー

これらすべてのことばを聞いた王も、彼のすべての家来たちも、だれ一人恐れおののくことはなく、衣を引き裂くこともなかった。

さて、これについて話す必要があります。もしあなたが私と同様であれば、そうだと思いますが、あな

たがこれを読む時、信じられませんよね？ しかし、これが起こりました。繰り返しますが、もしあなたが私と同様なら、「私は絶対にそんなことしないよ。」と否定すると思います。まあ、ちょっと待ってください。そう焦らず。「私が神の御言葉を手に取り、ハサミで気に入らない部分を切り始めるとでも言うのでしょうか？ 私はそれを鉄板に乗せて炒めて、バーベキューにして焦がして、それを取り除きますか？ そんなことは絶対にしません。」そんな感じでやらないかもしれませんが、だからといって、似たようなことをしないわけではありません。「どういうことですか？」ああ、どういうことか分かりますよね？ あなたが神の御言葉を読んで、「これは好きじゃない。」その箇所は、あなたに罪を示します。あなたを責めるものではありません。あなたに罪を示します。神の御言葉は両刃の剣のようで、切り裂き、燃やすからです。それは聖なる炎です。私の人生に住み着いてしまったものを焼き払い始めます。私はそれが好きではありません。だから、自分が燃やされるのではなく、自分がそれを燃やすのです。

「おお、抹消しないと。」つまり、暖炉の火に放り込むんです。しかし、それ以外の方法で排除します。ただその箇所を持ち出さない。それについて話さない。それを飛ばします。排除します。確実に引用はしない。牧師として、私はそれについて教えない。いや、私は教えなければなりません。それは、神のすべての勧告を、書ごと、章ごと、節ごとに教えているからこそ得られるものです。信じてください、神の御言葉の中には、言うのも恥ずかしいことですが、もし私が聖書を解説的に教えていなかったら、絶対に触れない箇所がたくさんあります。なぜだか分かりますね？ 私は非常に罪を示されるからです。どちらにせよ罪を示されますが、でも、…「それはもう切り捨てよう。」特にこのようなことが起こります。これに関して、私の思いを聞いてください。これは日々起きています。こんにちも健在です。多くの説教壇は、このようなことを飛ばして排除してしまいます。それを切り取る、取り出すということに似ています。放置するのはどうですか？ だから、牧師が局所的に教えて、

「ああ、私たちは難しいことではなく、滑らかなものだけを語りたいたい」となるわけです。だから、「ああ、そのことは説教から切り離そう。それは排除して、含めない。」こんな感じです。あなたは… もう一度、私の思いを聞いてください。牧師がいて、彼は前に出て、聖書から教えますが、聖書を教えません。御言葉から説教しますが、御言葉を説教してはいません。未熟で無教養なクリスチャンは、神の御言葉のこととなると、ほとんど気づかないでしょう。人々はそんな教えのもとに座り、牧師は何かを飛ばして、神の御言葉を排除し、切り捨て、取り除き、無効にしています。

しかし、神の御言葉が空しく帰ってくることはありません。(イザヤ 55:11)

それは牧師が何を言うかではなく、何を言わないのか、です。「彼は聖句を引用していますよ。何が悪いんですか？ なぜそんなに批判的なんですか？」牧師が教えるとき、他の牧師に対して最も批判的なのは牧師です。昔、牧師が牧師会で教えていたのを覚えています。恐ろしくて、気が気ではありません。汗をかき、自分の血で汗をかきます。牧師たちは皆、こんな感じで睨んでいます。ですから、これを聞いているあなたは、批判的には考えません。それを受け止め、それは良い事ですが、あなたはそれを聞きたいのです。あなたの耳はそれを聞きたくてしかたがありません。しかし、彼が言っていることを聞くのではなく、彼が何を言っていないかを聞くことです。ですからあなたは…ところで、これらは大きな教会です。名前を出す必要はありません、皆さん、すでにご存じでしょう。私が言っていることがまさに分かると思います。この説教者たちは、まさにそれこそフワフワとした、パシャパシャ、ピカピカとした感じです。もう少しあります、良ければ紹介しますが、とにかく、滑らかなのです。彼らが何を言うかではありません。なぜなら、それは真実だからです。

「神は愛です。神はあなたを愛しています。」しかし、彼らが言わないこととは、「神は義です。神は裁かれます。裁きは来ます。神は侮られるような方ではありません。人は種を蒔けば、刈り取りもすることになります。(ガラテヤ 6:7) 神の御言葉に耳を傾けてください。」

「ああ、…いやいやいや、皆に来週戻って来てもらいたいです。」先に進んだ方が良いですね。自分自身を苦しめることになります。25 節。

ーエレミヤ 36:25ー

エルナタンとデラヤとゲマルヤが、巻物を焼かないように王に懇願しても、王は聞き入れなかった。

ーエレミヤ 36:26ー

王は、王子エラフメエルと、アズリエルの子セラヤと、アブデエルの子シェレムヤに、書記バルクと預言者エレミヤを捕らえるように命じた。しかし、主は二人を隠された。

ナーナナナ〜ナ♪ 惜しかったですね。これは、ここで指摘しておく必要があるかもしれません。これは聖霊です。神は、ご自分のしもべを守られます。「あなたは彼を殺したいのですか？ あなたには殺せません。わたしは彼の人生の日々を、わたしの手のひらの上で、わたし翼の影の下で安全に握っています。あなたは彼に触れることはできない。」

私は何を恐れようか。人が私に何ができよう。(詩編 118:6)

疑い深いことと、慎重であることは違います。これは慎重であることです。賢い者は先の危険を察知し、慎重な者はバルクやエレミヤのように身を隠します。愚か者は進み続け、その結果に苦しみます。それは愚かなことです。これは知恵です。これは知恵であり、慎重さです。これは主が、ご自分のしもべを守っておられるのです。

「いや、あなたはまだ終わってない。エレミヤ、まだ 20 何章か書かなきゃいけないんだから。わたしが行くと言うまで、どこにも行けません。もう終わりですと、わたしがあなたに終わらせるまでは。1 秒も早くもなく、1 秒も遅くもない。その時が来れば、その時までです。アロハ。それで終わりです。しかしそれまではダメです。」

ああ、人への恐れに囚われないように、神に願います。主がお許しにならない限り、誰も、私に何もすることはできません。主は、それが主のご栄光と私の益のための御心でない限り、決してお許しになりません。神はご自分の預言者たちを、彼らを殺そうとする者たちから守られます。私たちに歯向かう者、私たちを殺そうとする者、黙らせようとする者から、神はあなたを守り、私を守られます。

「おい、それはわたしの預言者だ。あなたは触れることはできない。そんなこと考えることすら止めなさい。あなたは書記バルクと、預言者エレミヤを殺したいのですか？ やってみなさい。出来るはずがありません。」 27 節。

ーエレミヤ 36:27ー

王が、あの巻物、バルクがエレミヤの口述で書き記したことばを焼いた後、エレミヤに次のような主のことばがあった。

ーエレミヤ 36:28ー

「あなたは再びもう一つの巻物を取り、ユダの王エホヤキムが焼いた最初の巻物にあった最初のことばを、残らずそれに書き記せ。

ああ、もし彼がコンピュータのバックアップを持っていれば、もう一枚プリントアウトできるのに。「そんな！ もう一度すべて書き直せということですか？ どれだけ時間がかかったと思っているんですか？

この男はそれを火に放り込み、すべて燃やしたなんて！あんなに苦労したのに、一からやり直しだなんて！」もちろん、彼はそんなことは言いませんでした。私なら、完全に文句を言いまくるでしょう。29節。

一エレミヤ 36:29一

ユダの王エホヤキムについてはこう言え。主はこう言われる。…

おっと…、ここです。このことを、親しみを込めて「もう片方の靴が落ちた時/仕上げをする時」と呼びます。

一エレミヤ 36:29一

…主はこう言われる。あなたはこの巻物を焼いて言った。『あなたはなぜ、バビロンの王は必ず来てこの地を滅ぼし、ここから人も家畜も絶えさせる、と書いたのか』と。

分かりましたか？ ああ、だからあなたは焼いたのですね？ あなたは私があなたについて、あなたに降りかかることについて語ったことが気に入らなかったから。どう対処するか分かっています。ただそれを焼くのです。気に入らないから、焼くのです。焼いたからといって、それが起こらないわけではありません。実際には、倍返しです。今、あなたは本当に…今度こそは…惜しかったですね。30節。

一エレミヤ 36:30一

それゆえ、主はユダの王エホヤキムについてこう言われる。エホヤキムには、ダビデの王座に就く者がいなくなり、彼の屍は捨てられて、昼は暑さに、夜は寒さにさらされる。

一エレミヤ 36:31一

わたしは、彼とその子孫、その家来たちを、彼らの咎のゆえに罰し、彼らとエルサレムの住民とユダの人々に対して、わたしが告げたが彼らが聞かなかった、あのすべてのわざわいをもたらす。」

一エレミヤ 36:32一

エレミヤは、もう一つの巻物を取り、それをネリヤの子、書記バルクに与えた。…

はあ…もう一度です。最初の巻物を書くのですでに手が攣りましたよ。

…彼はエレミヤの口述により、ユダの王エホヤキムが火で焼いたあの書物のことばを残らず書き記した。さらに同じような多くのことばもそれに書き加えた。

わお…！この2つの章がどのように組み合わせられ、編まれ、つながっているか、分かりますか？ この章は、前の章と同様に、神の御言葉に従順であることの祝福と、逆に神の御言葉に従わないことの呪いと、驚くべき対比で終わっています。最後に、この話をしなければ、大変不注意なことだと思います。従順は不従順より楽です。不従順な人生は、より困難な人生です。罪人の道は険しい。不従順な人生は、従順な人生よりも難しいのです。

「でも牧師さん、従順は難しいと言いますよ。」待ってください。

主の命令は重荷にはなりません。(Iヨハネ 5:3)

イエスは仰いました。「わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽い。疲れている者はだれでもわたしのもとに来なさい。わたしがあなたを休ませてあげます。」(マタイ 11:28 - 30)

ヤコブは、上からの知恵は求めやすいと言います。(ヤコブ 1:5)

もう一度、ヨハネは、「主の命令は重荷とはならない」と言っています。

「では、従順は難しくないということですか？」そうです。聖霊がおられるからです。

聖霊＝聖なる人生

「どうすれば従順になれるのでしょうか？」自分の力では、不可能です。しかし、私に宿り、私を可能にし、私を力づける聖霊の力によって、私のうちに、私を通して、ある意味では私に代わって、従順な人生を歩むことが可能になります。私が努力し、汗を流し、従順になるために身を削るのではありません。いいえ、私の中におられる聖霊が聖い、従順な人生を生きることを可能にし、力を与えてくださいます。

最後に一つ。これは非常に重要です。この時期、プレゼントを贈るときに必ず考えることがありますよね。「何でも持っているあの人に、何を贈ろうか？ 相手が必要としているプレゼントはどんなものだろう？彼らは欲しいものをすべて持っている。」こんなふうに考えたことはありますか？神が必ず持っていないもので、私たちが与えることができるものは何でしょうか？ 答えはご存じですか？ 私たちの従順は、神がまだ持っておられないもので、私たちが神にささげることのできる唯一のものであります。

「従順はささげ物にまさる。」(Iサムエル 15:22 参照)

ささげ物は忘れてください。従順です。私たちが神に捧げることができる唯一のものは、私たちの従順さです。お立ちください。カポノ、出て来て下さい。失礼しました。

主よ、感謝します。わお...私はまだ圧倒されている感じです。この2章は何度か通しましたが、回を重ねるごとに良くなっているような気がしますし、より力強くなっています。あなたの御言葉はまさに、そのようなものです。それは、神の御言葉であり、御言葉の神であるあなたからのことばだからです。書を読むと、それを書いた著者と個人的な関係を持つような感じがします。著者を知っているからこそ、その書がより力強くなります。私たちは読んでいる書の著者との個人的な関係というレンズを通して、それを読みます。

主よ、私たちはあなたとの関係があります。このエレミヤ書のような章を読むとき、私たちは著者であるあなたを個人的に、親密に知っています。主よ、それが全体の様相を変えます。ああ、あなたはどれほど私たちを愛しておられることでしょうか。ああ、あなたの憐み、あなたの恵み、あなたの愛、あなたの慈悲。主よ、この2つの章をありがとうございます。私たちがこの場所から持ち帰ることのできる、深く力強い教訓をありがとうございます。主よ、私たちがそれを家に持ち帰るだけでなく、残りの週や週末に持ち帰り、聖霊がそれを私たちの生活に適用してくださるよう、あなたとあなたの御言葉への素直な従順さを祈ります。主よ、あなたの御言葉に本当に感謝します。イエスの御名によって、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7